



総務部 企画振興課 課長補佐 兼 企画調整係長 荒井さん(左)  
健康福祉課 健康福祉課 母子保健係主幹 兼 母子保健係長 鶴見さん(右)

PFUスキャナー  
導入事例

自治体



かほく市 企画振興課・健康福祉課  
業種 : 自治体  
人口 : 3万5,921人 (令和4年8月現在)



# 改善に対する職員の意識を変え 「日本一紙の少ない自治体」を目指して

## 手入力・目視確認が伴う庁内の事務処理業務をAI-OCR利用で60%効率化

申請書の情報を手入力でデータ化するなど紙帳票で行う業務が残っている自治体では、デジタル化が必要でも業務フローの変更が難しい、コストが高額という理由からあきらめているケースがあります。同様の問題を抱える石川県かほく市では、健康福祉課で乳幼児健診の間診票情報の入力などの業務を改善し効率化に成功。これにより職員の意識が変わり、「改善が改善を生む」良いサイクルがまわり始めているそうです。業務改善の内容、改善を成功させるために行ったこと、庁内の意識の変化についてお聞きしました。

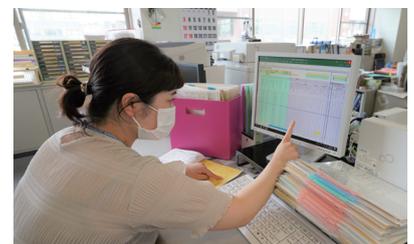
- 課題** 申請書の情報を1件ずつ手入力でデータ化し、入力結果を複数人で目視確認しているため手間と時間がかかっていた。
- 解決法** PFUのA4高速イメージスキャナー「fi-7180」とAI-OCRソフトウェア「DynaEye」を導入し、入力業務を自動化。
- 効果** 乳幼児健診のデータ入力時間を60%カット。任意予防接種の支払依頼の作業時間を46%カット。また、改善によって時間と心に余裕が生まれ、次のステップの改善を考えるなど職員の意識に変化が生まれた。

## 業務改善には、まず紙面情報のデータ化が必要

— AI-OCRを用いた業務改善を行った経緯をお聞かせください。  
**荒井さん** かほく市では以前からDX推進を検討していて、実はAI-OCRよりも前にRPAの導入を検討していました。しかし、いざ取り組んでみると、RPAが取り扱えるのはデジタル化された情報だけなので、紙帳票を使った業務が多いかほく市では適用できる業務が限られていました。それで、まずは「紙の情報をデータ化することが必要だ」と気が付き、AI-OCRでの業務改善に取り組むことにしました。  
— 最初に取り組んだのは、乳幼児健診の間診票の情報をかほく市の管理台帳に入力する業務かどうかでしたが、どのように選んだのですか？  
**荒井さん** 全庁を対象に、データ入力作業の改善が必要な業務を募集しました。17課から43業務が集まり、この中から手書き帳票のデータ入力が必要な大きな負荷になっていて、かつ業務効率化の効果が得られそうな健康福祉課の乳幼児健診の業務を選定しました。

— 乳幼児健診の間診票のデータ入力は、これまでどのように行っていたのでしょうか。  
**鶴見さん** 紙の間診票を見ながら必要な項目を1つずつ管理台帳(Excel)に手入力していました。手入力した項目に誤りがないか、紙と画面の文字を見比べながら1項目ずつ確認していましたね。健康福祉課の職員は、現場で乳幼児健診などの対応を行っているため、紙の間診票の入力作業は、業務終了後に行ったり、会計年度任用職員に依頼したりしていました。間診票の項目は約250あり、月に約80人分の入力を40時間ほどかけて対応していました。

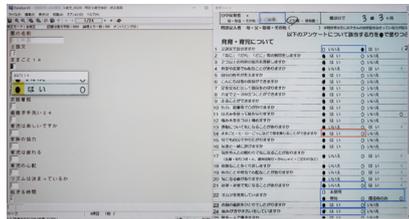
乳幼児健診の間診票(紙)を見ながらの入力作業に月に40時間(80人分)ほどかかっていた。



# 高速スキャナーとAI-OCRによる入力業務の自動化で負担感が劇的に変化

— 乳幼児健診の問診票の内容をデータ入力する業務の流れについて教えてください。

**鶴見さん** 問診票は「fi-7180」でスキャンし、「DynaEye」に取り込んで文字認識します。モニターに認識結果と問診票の画像が並んで表示されるので、照らし合わせながら誤りがないかを確認します。



DynaEyeは、モニターに問診票の画像と認識結果が横並びで表示されます。視線の移動が少なくOCR結果を比較しやすく確認時の負担が減ります。

確認後はCSVファイルで出力し、認識結果のデータ行をコピーしてかほく市の管理台帳(Excel)に貼り付けます。台帳データは国や県の報告に使用しています。この改善で、月に40時間かけていた作業を16時間に短縮することができました。

— カルテの電子化にも取り組んでいるとお聞きしましたが。

**鶴見さん** 各健診の紙の問診票を一人ずつファイリングしてカルテとして保管しているのですが、これを電子化しました。

まとめた書類の先頭に氏名や児童コードを記載した「セパレート用紙」をのせてスキャンすると、ファイル名に氏名などが自動付与されたPDFが作成されます。関係機関からの問い合わせにも、座席で電話をしたまま情報を検索して回答できます。

## 心に余裕ができ、次の改善を生むように

— AI-OCRの導入で工夫したこと、fiシリーズとDynaEyeを使った感想を聞かせてください。

**鶴見さん** 問診票の様式をAI-OCRが認識しやすいように調整し、認識精度が向上するように工夫しました。たとえば、次のような点です。

- 選択式の設問をすべてマークシートに変更
- 氏名とフリガナを2段に分ける
- 数字が等間隔で記載されるように、はしご線を付与

fi-7180は、折り目が付いている紙でも紙詰まりしませんし、何より読み取りのスピードに驚きました。

**荒井さん** DynaEyeはオンプレミス型でインターネットを経由せず利

用でき、情報セキュリティが担保できることも評価のポイントです。買い切りなので、読み取り枚数を気にすることなく類似業務に展開できるところも庁内に展開しやすくて良いです。

— 業務改善後、庁内で変化はありましたか？

**鶴見さん** 業務改善で時間だけでなく心にも余裕が生まれ、こうすればもっと良くなるのでは？と考えながら業務するようになりました。



fi-7180は、省スペースなのでデスクにおいて作業でき、スキャンするために席を立つ必要がありません。

## 「職員の意識の変化」が業務改善のポイント 「日本一紙の少ない自治体」を目指して

— 健康福祉課の業務改善をきっかけに職員の方の意識はどのように変化したのでしょうか？

**荒井さん** 当初は、「これをこうしてもらわないとだめ」「これができないのであれば導入しても意味がない」というように、「100%できないと無理」という雰囲気がありました。また、AI-OCRを導入できるのは大都市圏で、かほく市で予算化するのは無理、とあきらめているところもあったと思います。そのような中、今導入しなければ世の中から遅れてしまう、これを機会に一緒にやっつけよう！と、企画振興課が先導する形で始めました。現在は、100%自動化できなくても、6割でも効率化できれば業務が楽になるということを実感し、デジタル化に向けたマインドが醸成してきたと感じています。

最近では「この業務はAI-OCRで効率化できるか」という問い合わせが多くなるようになりました。

— 最後に「日本一紙の少ない自治体」を目指して考えていることがあれば教えてください。

**荒井さん** A4高速イメージスキャナー「fi-7180」とAI-OCRソフトウェア「DynaEye」を使った業務効率化を他業務にも横展開していると考えています。

まだまだ紙を使った申請はなくなりませんが、これからも庁内全体で業務改善を進め、日本一紙の少ない自治体を目指して進化していきたいと考えています。

※Excelは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

PFU

DynaEye

製品サイトにて、DynaEyeの特徴や導入事例をご紹介します。



[DynaEyeについてのお問い合わせ]

製品サイトの「お問い合わせフォーム」よりお問い合わせください。

fiシリーズ

スキャナーデモ機の無料貸し出し実施中！詳しくは、製品サイトをご覧ください。



[スキャナー製品についてのお問い合わせ]

株式会社PFU イメージングサービス&サポートセンター  
E-mail: scanners@ml.ricoh.com

2022年11月 Vol.19